

# オオバン 英:Eurasian Coot 学:*Fulica atra*

## 1. 分類と形態

分類: ツル目 クイナ科

全長: 36-45cm 翼開長: 68-80cm

翼長: ♂ 211-229mm (n=21) ♀ 197-213mm (n=23)

尾長: ♂ 50-61mm (n=18) ♀ 49-60mm (n=22)

嘴峰長: ♂ 28-36mm (n=143) ♀ 21-31mm (n=151)

額板の幅: ♂ 19-37mm (n=146) ♀ 16-33mm (n=152)

ふ蹠長: ♂ 59-65mm (n=37) ♀ 54-60mm (n=38)

体重: ♂ 610-1200g (n=215) ♀ 610-1150g (n=214)

※嘴峰長は額板を除く。額板の幅には雌雄差、年齢差、季節変化があり、なわばりの有無やホルモン(テストステロン)量と関係があるかもしれない(Visser 1988)。計測値はいずれもTaylor (1998)による基亜種 *F. a. atra* の計測値。



写真1. オス成鳥(右)と幼鳥の額板の比較。

### 羽色:

頭と首は黒くやや光沢がある。その他の羽衣は濃い青灰色で、脇と下面はやや薄く、上面は淡い黄褐色。翼の前縁に沿って小翼羽の外縁、最外の初列風切に狭い白線がある。次列風切の先端は白い。下尾筒は黒い。虹彩は赤い。嘴と額板は白い。非繁殖個体は虹彩が赤褐色で、嘴の側面は浅黒い。若鳥は虹彩が茶色から赤褐色で、上面の色は成鳥よりも淡く、喉・頬・下面の色は白っぽい。幼鳥の虹彩は濃い灰色から薄い茶色。嘴は灰色で、額板も灰色で小さい(Taylor 1998)。

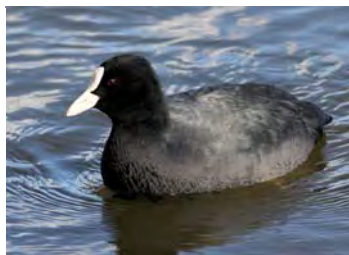


写真2. オオバン成鳥。

### 鳴き声:

キョン、プシッ、キョン、プシッや、キョンキョンキョンキョンと鳴く。

## 2. 分布と生息環境

### 分布:

主にユーラシア大陸とオーストラリア大陸に分布する。基亜種 *F. a. atra* の繁殖域は、アイスランド、イギリス諸島、西ヨーロッパから極東ロシア、日本列島、南はアフリカ大陸北西部から、中東、南アジア、モンゴル北部、中国北部、朝鮮半島であり、北方の個体は温帯や熱帯に渡って越冬する。亜種 *F. a. lugubris* はニューギニア北西部に、亜種 *F. a. novaeguineae* はニューギニア中央部に、亜種 *F. a. australis* はオーストラリア大陸、タスマニア島、ニュージーランドに分布する(Taylor 1998)。

ウェットランドインターナショナルでは、主に越冬個体群を基準に8つの個体群に分けており、東・東南アジア個体群の1%個体数は20,000羽と推定している(Wetlands International 2013)。

**生息環境:** 広い、滞水または流れの緩い水域で、水底が泥質で水草が豊富な富栄養または中栄養の湖沼や池、ダム湖、貯水池、運河、河川、用水路、河口干潟、水田、ハス田等の湿地に生息する(中村・中村 1995, Taylor 1998)。

## 3. 生活史

| 1       | 2 | 3 | 4 | 5 | 6   | 7 | 8 | 9    | 10 | 11 | 12月 |
|---------|---|---|---|---|-----|---|---|------|----|----|-----|
| 繁殖システム: |   |   |   |   | 繁殖期 |   |   | 非繁殖期 |    |    |     |

一夫一妻。非繁殖期は群れを形成するが、繁殖期は群落前面の開水面に岸に沿ってなわばりを形成する(Cavé *et al.* 1989)。なわばり形成期には、オスどうしが水面で激しく追いかかけ合ったり、脚で蹴ったりしてなわばりを防衛する(Fjeldsø 1975, 中村・中村 1995)。千葉県・手賀沼では産卵は4~7月(ピークは5月)に行われ、再営巣を含めて年に3回まで(海外では4回まで)産卵することがある(北島 1994)。1回目の繁殖で生まれた若鳥が2回目の繁殖時にふ化したヒナの世話をすることがある(Cramp & Simmons 1980)。巣材は雌雄で運搬するが、産卵用の巣の形を整えるのは主にメスのみ。産卵用の巣とは別に育雛用の巣を1個以上、オスが作ることもある(Cramp & Simmons 1980)。抱卵・抱雛・給餌は雌雄ともに行う(北島 1994)。

### 巣:

手賀沼では巣は水深が深いヒメガマ群落内で密度が高く、次がマコモ群落内で、ヨシ群落中には少ない(北島 1994, 斉藤 1994)。ヒナのふ化後、近くに別の育雛用の巣を作って移動することがある。しかし給餌は巣内では行われず、ヒナが水面に降りて餌を受け取る(北島 1994)。産卵用の巣は皿型で、外径は30~90cm、産座径は25~40cm、巣の高さは5~30cm(斉藤 1994)。育雛用に新たに作られる巣には産座はない(北島 1994)。巣材は枯れたヒメガマの葉や茎が主で、他に枯れたマコモやヨシなど(北島 1994, 斉藤 1994)。人工物の上に巣を作ることもある(Hiraoka 1996)。

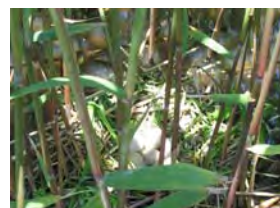


写真3. 巣と卵。

### 卵:

小林(1956)では6~12卵とされるが、手賀沼では平均5.2卵(3-8卵)でやや少ない(北島 1994)。卵型は47.0×32.0~57.0×38.0mm、卵重は産卵後2週間以内で30~40g(北島 1994)。卵色は黄灰色で微小斑がある(小林 1956)。

### 抱卵・育雛期間:

産卵は1日1卵ずつで、2卵目または3卵目から抱卵を開始し、抱卵期間は21~25日間。ヒナはふ化後わずかな時間で離巣するが、親鳥は約2週間巣または育雛用の巣で抱雛する(北島 1994)。ふ化後55~60日間で巣立ちを迎えるが(Cramp & Simmons 1980)、ふ化後15週間目まで家族群で過ごした例もある(斉藤 1996)。

### 渡り:

北方の個体は温帯や熱帯に渡って越冬する。渡りは通常夜間に行われ(Taylor 1998)、ヨーロッパでは6~9月に渡り前の換羽個体の集結が見られている(Cramp & Simmons 1980)。東・東南アジア個体群の渡りについては、ロシア極東のハンカ湖で足環を装着して放鳥された個体がベトナムと佐賀県で見つかっている(ロシア鳥類標識センター)。また、茨城県・北浦で冬季にウイングタグを装着した個体が、その後、茨城県、千葉県、栃木県、宮城県、岩手県、青森県で見つかっている(斉藤ら 2000)。

## 4. 食性と採食行動

雑食であるが、基本的には草食。水生植物(沈水植物・抽水植物・藻類等)や時には陸上植物の植物体や種子を食べる。貝や甲殻類、小魚、昆虫、ユスリカの幼虫等の動物質の餌も食べる。潜水や倒立をして水中のものも採食する(Cramp & Simmons 1980)。霞ヶ浦周辺では蓮田のくづレンコンを食べにきたオオバン等が防鳥ネットに羅網して問題となっている(明日香ら 2011, 渡辺 2012)。

## 5. 興味深い生態や行動、保護上の課題

### ● 日本国内の繁殖域・越冬域の拡大

筆者らは日本全国におけるオオバンの分布の変遷について、地方出版物などにもあたりながら情報を収集している(図)。「日本鳥類分布生態図説」(宇田川 1967)のオオバンの分布図を見ると、関東では留鳥、東北と北海道では夏鳥、九州と四国では冬鳥とされている。上述のウイングタグの目撃情報や足環回収記録から、おそらく東北・北海道で繁殖していたオオバンは関東で越冬し、九州・四国で越冬していたオオバンはロシア(当時はソ連)や中国などの大陸で繁殖する個体だったと考えられる。1980年代に入ると、中部・近畿・中国地方でも少数のオオバンが越冬するようになり、近畿地方や中国地方、九州でも繁殖が報告され始める。そして、1990年代、2000年代になるにつれ、西日本各地で越冬するだけでなく、越冬地が東北地方へと北上している。近年は、北海道でも少数の越冬個体が見られるようだ。越冬地の北上は、温暖化の進行に伴って、湖沼が氷結しなくなったことも関係しているだろう。

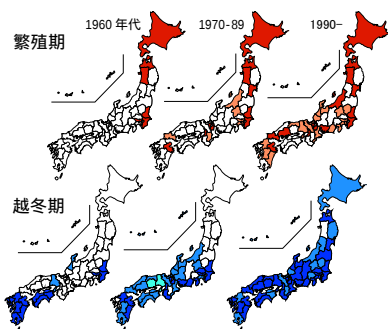


図. 都道府県毎のオオバン分布域の変遷。色が濃い順に普通、少数、稀。伊豆諸島、小笠原諸島、奄美諸島、南西諸島、大東諸島では越冬している。

### ● 全国的な越冬数の増加

環境省のガンカモ・ハクチョウ類の一斉調査ではオオバンの越冬数の報告はされていないので、なかなか毎年の越冬数の変遷を追える場所がないが、アジア水鳥センサスの報告や日本野鳥の会支部等に問い合わせる各地のオオバン越冬数のデータを収集し、1990年代後半以降、各地でオオバンの越冬数が増加する湖沼がみられていることを把握している(橋本 2013)。現在、1千羽を超えるオオバンの越冬が見られるのは、青森県・小川原湖(変動幅が大きいものの、2千羽を超える年もある)、茨城県・霞ヶ浦(2千羽から4千羽程度で推移)、滋賀県・琵琶湖(5万羽超)の3か所程度であろうが、中小規模の湖沼や河口等でも越冬を始めたり、数が増えている。なお、静岡県・浜名湖では2007年のピーク時には2377羽にも達したが、その後急速に数を減らしている。このように国内各地のオオバン越冬

数を増加させた要因のひとつは、この30年間で国内の繁殖分布が拡大していることであろう。しかし、中部地方や近畿地方に冬期に渡来するオオバンの繁殖地がどこであるのか、まだわかっていない。また、琵琶湖の5万羽を超えるオオバンの越冬数は、国内での繁殖分布域の拡大だけではとても説明がつかないほど多い個体数である。特に西日本での増加については、国外(ロシア・中国)でのオオバン繁殖数が増加していることによる可能性が強く、ロシア沿海地方のハンカ湖周辺ではオオバンの繁殖地が増えているという情報もあるが、まだ確証はない。温暖化によって繁殖域が北上している可能性も考えられる。一方、中国でこの数十年間でオオバン越冬数が大きく減少した湖沼があることがアジア水鳥センサスでわかっており、中国で越冬していたオオバンの群れが西日本に越冬地を変えたために増えている可能性も考えられる。

## 6. 引用・参考文献

- 明日香治彦・池野進・渡辺朝一. 2011. 茨城県下のハス田における防鳥ネットによる野鳥羅網被害の状況. *Strix* 27: 113-124.
- Cavé, A.J., Visser, J. & Perdeck, A.C. 1989. Size and quality of the Coot *Fulica atra* territory in relation to age of its tenants and neighbours. *Ardea* 77: 87-98.
- Cramp, S. & Simmons, K. 1980. Handbook of the Birds of Europe the Middle East and North Africa: The Birds of the Western Palearctic, Vol. 2. Oxford University Press, Oxford.
- Fjeldså, J. 1975. The Coot and the Moorhen. av-media, Copenhagen.
- 橋本啓史. 2013. 各地で増加するオオバン. 日本野鳥の会茨城県会報ひばり No. 311: 6-9.
- Hiraoka, T. 1996. Utilization of artificial floating objects as nest platforms by Little Grebes and Eurasian Coots in Lake Teganuma, Central Japan. *J. Yamashina Inst. Ornithol.* 28: 108-112.
- 北島信秋. 1994. 手賀沼におけるオオバンの繁殖生態. *山階鳥研報* 26: 47-58.
- 小林桂助. 1956. 原色日本鳥類図鑑. 保育社, 大阪.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>. 保育社, 大阪.
- 斉藤安行. 1994. 手賀沼におけるオオバン *Fulica atra* の営巣状況. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告第3巻: 15-25.
- 斉藤安行. 1996. 手賀沼におけるオオバン (*Fulica atra atra*) のヒナの成長にともなう羽色の変化. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告第5巻: 161-168.
- 斉藤安行・菊池和史・嶋田峻三・谷田川康一. 2000. 北浦で越冬するオオバン (*Fulica atra*) のウイングタグ装着による渡りの記録. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告第8巻: 37-41.
- Taylor, B. 1998. Rails: A Guide to the Rails, Crakes, Gallinules and Coots of the World. Yale University Press, New Haven and London.
- 宇田川竜夫. 1967. 日本鳥類分布生態図説. 岩崎書店, 東京.
- Visser, J. 1988. Seasonal changes in shield size in the Coot. *Ardea* 76: 56-63.
- 渡辺朝一. 2012. ハス田に敷設された防鳥ネットに羅網した野鳥の被害状況と防鳥ネット敷設が鳥類の生息に与える影響. *Bird Research* 8: A11-A18.
- Wetlands International 2013. Waterbird Population Estimates. Retrieved from [wpe.wetlands.org](http://wpe.wetlands.org) on 27 Feb 2013.

## 執筆者

橋本啓史 名城大学農学部生物環境科学科 助教

大学では造園を教えますが、主な研究対象は都市・里山・湖沼の鳥類で、景観生態学の視点から研究しています。琵琶湖と霞ヶ浦でオオバンにウイングタグを装着して渡り追跡を試みているので、ウイングタグ付きのオオバンを見かけた方はご連絡下さい！



(<http://www.ne.jp/asahi/hashihashi8/res/ooban.html>)